

川西町公立幼児施設等の在り方について

～すべての子どもたちの笑顔のために～



川西町

1. はじめに

背景と趣旨

- ◇ 本町の公立幼児施設では、大きく二つの課題を抱えています。
 - 一つは、少子化の進行です。公立保育所、幼稚園の園児数は減少傾向にあり、施設によっては適正なクラス人数を確保することが難しい状況にあります。この状況は、今後も加速すると考えています。
 - もう一つは、幼児施設の老朽化です。公立保育所、幼稚園は老朽化が進んでおり、施設の修繕に係る経費が膨らみ、施設の安全性を確保するため、将来的な維持管理経費の削減と運営経費の削減の効率化を踏まえ検討が必要になっています。
- ◇ このような状況を踏まえ、公立幼児施設等の在り方について、未来の川西町を担う子どもたちのことを第一に考え、すべての子どもたちの笑顔のために、子どもたちが初めて集団生活を経験する就学前教育、保育施設的环境をどのような施設で提供するかが重要な課題ととらえています。
 - 将来の就学前教育、保育の望ましい姿を見据える上で、中長期的視点に基づく適正な施設規模や配置、形態などを見直し、町全体で取り組んでいくため、「川西町公立幼児施設等の在り方について」をとりまとめました。

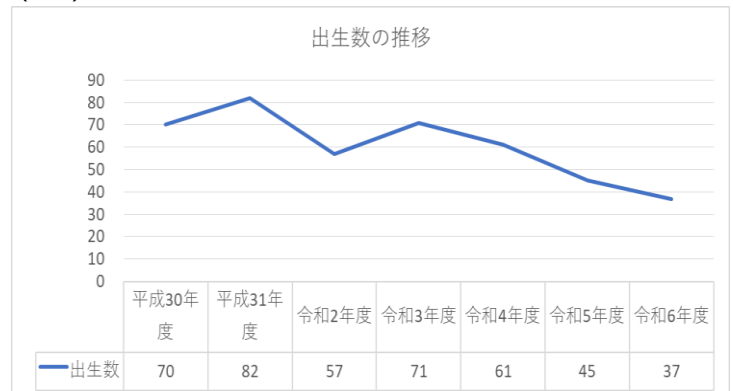
2. 本町の現状と課題

(1) 就学前教育、保育施設の現状

①出生数の推移

平成26～29年度までは90～100人の間で推移していましたが、平成30年以降90人を下回り、令和6年度には過去最少の37人と約半数まで減少しています。(図1)

(図1)



住民課「住民基本台帳人口増減調書」より

②町内の乳幼児施設別入所者数の推移

令和3年度までは、公立、民間の施設に差はなかったのですが、令和4年度から公立の施設の入所者数が大きく減少しています。(図2)

(図2)

	各年度4月1日現在 (人)						
	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小松保育所	100	98	86	71	72	71	68
北斗幼稚園	41	40	37	32	34	28	28
美郷幼稚園	52	57	58	56	42	30	27
玉庭へき地保育所	6	-	-	-	-	-	-
公立施設 計	199	195	181	159	148	129	123
小松幼稚園	104	103	104	106	99	95	100
美女木げんき保育園	32	33	29	28	24	27	22
あおぞら保育園	29	35	30	37	31	38	30
パステルファミリー	17	19	19	19	16	17	14
事業所内保育所	4	1	4	1	6	4	3
民間保育園 計	186	191	186	191	176	181	169
町外施設	33	41	37	44	42	39	33
合計	418	427	404	394	366	349	325

③施設(園舎)の現状

公立幼児施設4施設のうち3施設が築30年以上経過していて老朽化が進んでおり、維持管理経費が増加しています。

施設名	構造	建物面積(m ²)	敷地面積(m ²)	建築年度	R7維持管理経費(円)
小松保育所	鉄筋コンクリート造	956.81	4,461	S54(築46年) H11(増築)	9,212,998
美郷幼稚園	鉄筋コンクリート造	800.49	4,391	S58(築42年)	9,344,034
北斗幼稚園	木造	877.81	9,792	H11(築26年)	
子育て支援センター	木造	799.53	5,948	S61(築39年)	3,504,329

(2) 就学前教育、保育施設の課題

①施設の規模と配置の適正化

少人数での幼児教育や保育は細やかな保育ができますが、遊びを通しての子どもの社会性、協調性、自主性を育む「集団規模」の確保が難しい状況になっています。

②保育ニーズの多様化に対応した環境の確保

少子化で乳幼児数は減少していますが、0～2歳児までの入所率は伸びており、子育て世帯の家庭環境の変化により、保育サービスの提供は必要とされています。

子育て世帯の共働きや核家族の増加、就労環境の多様化等を背景とする教育、保育ニーズの多様化に対応した教育、保育環境の確保が必要です。

③老朽施設（園舎）の対策

安全面、衛生面から施設を維持していくための維持管理経費が増加しています。公立の施設の整備費用は、国県の補助制度の対象外であるため町の負担で改修、修繕を行っています。将来的な維持管理経費削減と運営経費の削減の効率化を踏まえて検討が必要です。

④公立施設と民間施設の相互連携による役割分担

効率的な運営管理を図るため、公と民で相互に連携しながら多様な教育、保育ニーズに対応していくことが必要です。

3. 川西町幼児教育・保育施設の役割

(1) インクルーシブな幼児教育・保育の推進

幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎が培われる重要な時期であり、障がいの有無、年齢、国籍に関わらず、町内すべての子どもたちがともに学び成長できるインクルーシブな幼児教育、保育環境を充実するため、保育士のスキルの向上や受け入れ体制の拡充などの適切な配慮のもと幼児教育、保育を受けられる環境を整備します。

(2) 幼保小連携の更なる推進

家庭や地域との連携のもと、連携体制の構築、交流事業を実施し、成長段階に応じた幼児教育を充実することで就学前の教育から小学校への円滑な接続を図っています。

(3) 地域の子育て支援充実の取り組み

子育てに困難を抱える家庭の育児相談や子育て中の親子の交流促進の場を充実し、多様化する保育ニーズに対応した柔軟な教育、保育サービスの提供や子育て支援に取り組んでいます。

(4) 幼児教育、保育等の質の向上と人材確保

子どもの心身の健やかな成長に資する環境は、幼稚園教諭や保育士の役割が重要であるため、公立、民間を問わず研修を通して交流し、専門的な知見や豊富な実践経験を助言、共有できる体制にし、人材育成に力を入れ保育技術の向上を図ります。

(5) 地域における幼児教育、保育の「セーフティネット」としての役割

少子化の進行が今後も続くことで、就学前児童数の減少が見込まれ、施設の定員割れによる民間施設の運営悪化も懸念されます。公立の幼児施設は、民間への影響を最小限に抑え、持続可能な保育行政を推進できるよう、就学前児童数の増減に合わせた定員の調整機能としての役割を担っています。

- ◆「第3期川西町子ども・子育て支援事業計画」（計画期間：R7～11年度）の基本理念「すべての子どもたちの笑顔があふれるまちづくり」の実現のため、これまで以上に町行政と民間、公立を問わず川西町内のすべての幼児教育、保育施設が協力し合い、一体となって上記役割を推進しながら幼児教育、保育施策に取り組んでいけるような体制を整備していきます。

4. 川西町幼児教育・保育施設の方向性について

(1) 公立施設の統廃合と民間活力の導入

- ①令和9年度末に公立幼稚園2園を集約して令和10年度から一つの幼稚園（現北斗幼稚園）とし、併せて子育て支援拠点施設の機能を持たせます。
- ②美郷幼稚園と小松保育所の施設は閉園とします。

施設名	地区	種類	閉園	統合
小松保育所	小松	保育所	R10.3月閉園	
美郷幼稚園	中郡	幼稚園	R10.3月閉園	R10.4月統合
北斗幼稚園	大塚	幼稚園		R13.3月閉園

- ③既存の民間の保育所の受け入れ年齢を拡大することで民間活力の導入を検討します。
- ④統合する公立幼稚園は、町内のすべての子どもが同じ環境のもと保育が受けられるよう民間施設をサポートする期間を3年間設け、その後閉園とします。

(2) 地域の子育て支援の拠点機能の拡充

未就園児の家庭なども含めたすべての子育て世帯への支援を行う地域子育て支援拠点の役割を担う機能を拡充します。障がいや発達上の課題、個性などの様々な子どもの状況に応じ適切に配慮できる「インクルーシブ教育、保育」を推進できる体制を整えます。

(3) 幼児教育、保育の質の向上

幼児教育、保育において、幼稚園教諭や保育士の役割が極めて重要と考え、公立幼保施設や町行政で蓄積した情報やノウハウ等を町内の民間施設へ共有できる体制を整えていきます。

(4) 民間幼児教育、保育施設等のサポート

町内の子どもたちが同じ環境の下で、幼児教育や保育を受けることができるよう町全体での子育て環境の向上を推進していきます。

公立幼稚園を準備期間として3年間開園している間に、民間施設へのサポートをしながら環境を整えていきます。

(5) 保育にかかる需要と供給のバランスを調整

町全体の保育需要、入所状況、施設の配置状況、国県の制度の動向等を注視しながら各施設の定員の調整機能を担っていきます。

上記、在り方の方向性に至ったポイント

- ・ここ数年間の就学前児童数の減少に伴い、近い将来、保育需要の減少も想定され、町内の保育需要に合った利用定員の縮小や施設の統合などの調整が生じてくること。
- ・公立幼児施設の老朽化等による今後の町の財政負担を考慮したうえで、これまで以上の保育ニーズへの対応や子育て支援サービスを継続していくには、公立幼児施設の規模を縮小し、民間施設の受け入れ拡大の検討が必要であること。
- ・これまで公立の幼児施設が小学校と連携して行ってきた成長段階に応じた幼児教育の充実は、民間施設へのサポートや連携を責任もって継続して推進していくこと。

なお、社会情勢の変化や保育需要の状況等により、上記の在り方の方向性に大きく影響を及ぼすような変化が生じた場合は、必要に応じ柔軟に在り方の見直しを行います。